

KSGP18048
江畑 隼也
Shunya Ebata



フェリカ建築&
デザイン専門学校
建築デザイン科



「まちの停留所」
〔富山県 高岡市 寺町〕

富山県高岡市寺町。この地域は寺を囲むように長屋が立ち並び、人々で賑わっていた。今は老朽化した長屋と、無作法に建て替えられた住宅が混在し、町並みとしては見るに耐えない状況である。この地域をクリアランスし、地域に散らばった民間のソフトを組み込むことで、地域活性の核となる場を提案する。

「三軒セコ長屋

―知多半島・亀崎に残る大正時代 の三軒長屋の改修提案―

〔愛知県 半田市 亀崎地区〕

祭礼「亀崎潮干祭」で知られるまちは、目の前に海が広がりその背後には山が迫る地形が特徴である。わずかな平地や丘陵地に人々が寄り集まることで、周密な暮らしと共に「生活道＝世古道」が生まれた。町に残る多岐多様な空間資源と築百年の長屋を世古で結び、新たな歴史の層を三軒長屋へと重ねていく。



共同出展者 加藤 大誠 Taisei Kato 名城大学大学院 理工学研究科 建築学専攻
川端 一輝 Kazuki Kawabata 名城大学大学院 理工学研究科 建築学専攻
竹中 智美 Tomomi Takenaka 京都芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 建築学専攻
山本 帆南 Honami Yamamoto 名古屋工業大学大学院 工学研究科 社会学専攻

KSGP18058
高野 哲也
Tetsuya Kono



名城大学大学院
理工学研究科
建築学専攻

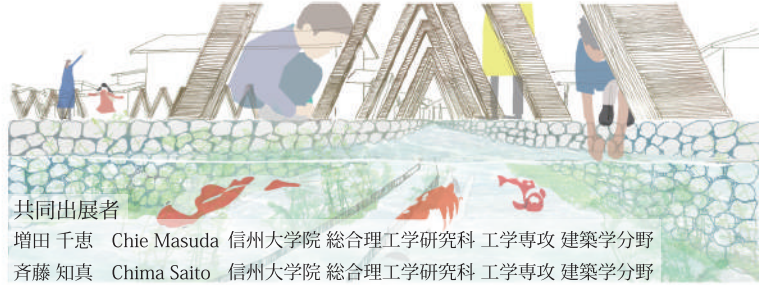
KSGP18052
筒井 伸
Shin Tsutsui



信州大学大学院
総合理工学研究科
工学専攻
建築学分野

「鯉巡る町」〔長野県 佐久市〕

養鯉業で栄えた長野県佐久市は、その内陸性の気候を活かして3年間かけて育てる「佐久鯉」名産の地である。3年間の養鯉プロセスを町に展開し、生活と養鯉を接続することで住民が養鯉に参加しながら生業の循環と鯉を中心のコミュニティを形成することを提案する。



共同出展者
増田 千恵 Chie Masuda 信州大学大学院 総合理工学研究科 工学専攻 建築学分野
斉藤 知真 Chima Saito 信州大学大学院 総合理工学研究科 工学専攻 建築学分野

「あるもの、なかったもの。―これからの雑賀崎―

〔和歌山県 和歌山市 雑賀崎〕



日本のアマルフィと呼ばれる和歌山県にある雑賀崎漁村の特徴的な要素を、「あるもの」とし、「なかったもの」を加え雑賀崎を訪れた人々に、雑賀崎の歴史・文化・景観を感じ取ってもらえるように、「レセプション・テルマエ・資料館」の三つを提案する。

KSGP18064
木下 義浩
Yoshihiro Kinoshita



東京大学大学院
工学系研究科
建築学専攻

KSGP18055
木村 慎太郎
Shintaro Kimura



東京大学大学院
工学系研究科
建築学専攻

「理想への干渉―成長時代を支えた遺産「郊外住宅地」を再編する―

〔千葉県 千葉ニュータウン〕



「歴史的空間」とは、その場所に蓄積された時間だけが作り出すものではありません。社会背景と共に生み出され、日本の成長を支え続けた場所こそ「歴史的空間」であると考えます。住宅生産の歴史を紐解き、多様化する現代において死を迎えようとする「郊外住宅地」の再編モデルを構想します。

「稲田石切山脈

―採石場跡地の崖に建つ建築―

〔茨城県 笠間市 稲田採石場 石切山脈〕

敷地は現在も採石が続けられている、茨城県笠間市稲田の「石切山脈」と呼ばれる採石場である。採石は現在に至るまで70年もの間続けられ、今後も150年以上採石が続けられる。この石切山脈における人が立ち入ることのできなくなってしまった採石跡の崖に、昔から崖地に造られる木造懸造の工法を利用し、これまでの「石切山脈」、これからの「石切山脈」の石の文化、歴史を伝承するための建築を提案する。



KSGP18066
高木 駿輔
Shunsuke Takagi



東京都市大学大学院
総合理工学研究科
建築・都市専攻

KSGP18071
松本 樹
Itzuki Matsumoto



愛知工業大学
工学部
建築学科
建築学専攻

「SETAGAYA RURBAN APARTMENT

生産緑地利用による農村都市形成のケーススタディ」
[東京都 世田谷区]

本提案は、2022年問題によって失われゆく歴史的産物とも言える「生産緑地」に着目し、「農」という我々の営みに根付く最も根源的な要素を媒介とした建築が、経済原理に基づく画一的な都市開発によって歴史的価値観を失った住居地域に、「住むための場所」としての豊かさを創出するものである。



「浮舟 川より紡がれる暮らし」 [京都府 宇治川流域]

共同出展者
山本 博史 Hiroshi Yamamoto 大阪工業大学大学院 工学研究科 建築・都市デザイン工学専攻
国本 晃裕 Akihiro Kunimoto 大阪工業大学 工学部 建築学科
川島 裕弘 Yasuhiro Kawashima 大阪工業大学 工学部 建築学科
藤田 宏太郎 Kotaro Fujita 大阪工業大学 工学部 建築学科
水上智好 Satomi Mizukami 大阪工業大学 工学部 建築学科
福西直貴 Naoki Fukunishi 大阪工業大学 工学部 建築学科



敷地は宇治川。上流から下流へと流れる川は人や物を運び生活を支えてきたと同時に、清水を利用していく立場として信頼関係が形成されてきた。しかし現在、川は生活に背を向けたものへとなっている。そこで、再び川を通じて各々の地域を繋げ、物事の流通と地域同士の信頼関係を創出していく。

KSGP18095
青木 雅子
Masako Aoki



大阪工業大学
工学部
建築学科

KSGP18078
仲間 剣
Tsurugi Nakama



工学院大学大学院
工学研究科
建築学専攻

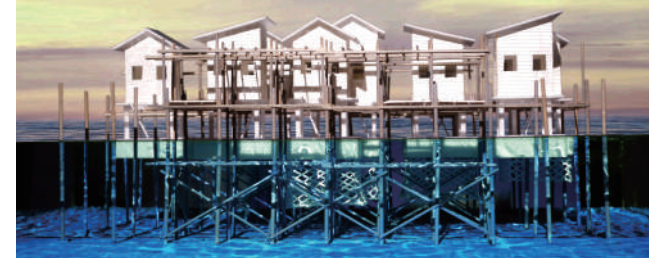
「かえされた場所 つくりなおす居場所 ～沖縄米軍基地跡地における公民館の提案～」



[沖縄県 宜野湾市 西普天間住宅地区跡地]

沖縄全体の18%もの土地を占める米軍基地。近年その広大な土地の返還が始まった。しかし過去の跡地開発は沖縄の伝統とは切り離された東京の様な街を作ってしまった。そこで新たに返還された跡地において、沖縄の伝統を汲み取りながら、かえされた場所を再び『地域の居場所』とする公民館を提案する。

「季節移住に伴う仮設住居形態の再編計画」 [カンボジア カンポンブロック村]



ここは湖上にある村。洪水が日常の村に住む人々は、洪水が引いて村に大地が現れると生業である漁業を営むために湖の浸る場所へ季節移住し、仮設住居を湖上に建て生活してきた。私は彼らが長い年月をかけ発展させた知恵と技術に敬意を払い、「生きる」ための営みに建築を加え移住先の住形態を再編する。

KSGP18097
百家 祐生
Yuki Momoka



大阪大学大学院
工学研究科
地球総合工学専攻

KSGP18080
齋藤 翔太
Shota Saito



立命館大学大学院
理工学研究科
環境都市専攻
建築都市デザインコース

「時の筆 十分の九の歴史的空間感覚を再編する」 [奈良県 奈良市 高畑町]

文字に時間を掛ける時代は終わったのだろうか
かつて奈良には「まほろば」と呼ばれるユートピアが存在していた
その名残は今も色濃く残っており、1300年経った今も独特な空気感が都市を包んでいる
そんな奈良に溶け込むような建築で、筆を窘め、思いを綴る施設を提案する



「見えない奥に暮らす」 [秋田県 横手市 増田町]

共同出展者
佐々木 秀人 Syuto Sasaki 日本大学大学院 理工学研究科 海洋建築工学専攻
金井 亮祐 Ryosuke Kanai 日本大学大学院 理工学研究科 海洋建築工学専攻
桜井 南実 Minami Sakurai 日本大学 理工学部 海洋建築工学科
小林 陽太 Yota Kobayashi 日本大学 理工学部 海洋建築工学科
中村 数基 Kazuki Nakamura 日本大学 理工学部 海洋建築工学科
中村 美月 Mitsuki Nakamura 日本大学 理工学部 海洋建築工学科
松下 将也 Masaya Matsushita 日本大学 理工学部 海洋建築工学科



敷地は秋田県横手市増田町。商家の連なる在郷町として繁栄したこの街では、「表に見えない歴史的空間」が生活と共に続いてきた。本計画では、増田町が本来もつ「見えない歴史的空間」を地域の生活の場として再編し、使われることで後世まで残していく保存手法を提案する。

KSGP18123
根本 一希
Kazuki Nemoto



日本大学
理工学部
海洋建築工学科